平成28年度第1回県北広域振興圏地域運営委員会議　会議録

日時：平成28年５月17日（火）13：30～15：30

場所：久慈グランドホテル　７階スカイホール

１．開会

２．挨拶

【八重樫局長】

本日は、お忙しい中お集まり下さいましてありがとうございます。４月から県北広域振興局長を拝命しました八重樫と申します。よろしくお願いします。出身は、北上市でございます。沿岸勤務は、宮古、大船渡市、そして、今回の久慈市で３か所目でございます。出張では何度も来たことはあるのですが、住んだのは初めてでございます。１か月半くらい経ちますが、管内は非常に食べ物がおいしく、今後が楽しみになっています。どうぞよろしくお願いします。

地域運営委員の皆様につきましては、私ども振興局が、地域の皆様との協働により、活力みなぎる地域を形成していくため、各分野で活躍している皆様に委嘱しているものですので、再任の委員の皆様、新任の委員の皆様とも、これからの任期の２年間、御指導、御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年の２月に策定した「いわて県民計画第３期アクションプラン」につきましても、昨年度地域運営委員の皆様の御意見をいただきまして、それを反映した形であります。本年度は、復興実施計画第２期の最終年度であり、知事もよく申しておりますけども、「本格復興完遂年」として、防波堤などの基盤整備、復興まちづくり、震災からの本格復興を強く進めるという年であります。

さらに、人口減少対策といたしまして、若年層を中心とした人口流出の防止や定着促進、魅力ある地域づくりに向けた取り組みも進めていくこととしております。

本日は、今期委嘱させていただきました委員の皆様による、初の会議になりますけれども、県北地域全体の復興、振興に向けまして忌憚のない御意見、御提言をいただければと思っております。よろしくお願いします。

３．自己紹介

【和山参事】

今日は、地域運営委員改選後、初めての開催でございますので、委員の皆様方には大変恐縮でございますが、日頃の活動等を含めまして１分程自己紹介をお願いできればと思います。

それでは、間委員から順にお願いいたします。

【間委員】

久慈市の間と申します。本業は福祉ですが、久慈市の農業委員と森林組合の役員を仰せつかっております。地域農業、産業振興につきまして勉強させていただきます。よろしくお願い致します。

【安藤委員】

はじめまして、野田村でホタテ漁師をやっております安藤と申します。今日は、皆様方から今後の御意見を伺い、勉強しながら地域を活性化したいと思いますので、よろしくお願いします。

【大沢委員】

二戸市から参りました、大沢と申します。二戸の駅前の三和ドレスという縫製工場からまいりました。昨年、北いわてのアパレル企業が集いまして、県の補助をいただきながら、北いわて産業振興会というものを立ち上げました。その事業などで、日頃は大変お世話になっております。それと共に、福祉の部分につきましても、二戸でやらせていただいておりますので、そういった点でなんとかお役に立てるように微力ながら頑張ってまいりますので、よろしくお願い致します。

【大建委員】

はじめまして、よろしくお願い致します。岩手県の一番北の端のところにある、小さい温泉郷から参りました。おもてなしの宿、小保内温泉の若女将をやらせていただいております、大建です。基本的には、県内外からいらしたお客様に２回３回とリピートして来てくださるよう、おもてなしの方を徹底的に努力させていただいているんですが、県北の皆様と顔を合わせることがほとんどなかったので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

【小野寺委員】

皆様、こんにちは。軽米町からやってまいりました、小野寺と申します。軽米では、電子部品の会社をやっておりまして、軽米のお世話になってから 35 年過ぎました。当初は、時計部品の会社から始めまして、私も地元軽米の出身でございます。軽米町においては、消防団活動、副団長をやっております。あとは、いわてものづくり会の副会長を今年から仰せつかりました。皆様のご意見等を御聞きしながら、勉強させていただきたいと思い、本日参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

【佐藤委員】

皆様、こんにちは。一戸町から参りました、佐藤と申します。社会福祉法人慈孝会の職員として働いており、社会福祉法人の母体は、特別養護老人ホームです。その他にデイサービスセンターと有料ホーム、ヘルパーステーションを構えており、そこで施設長をしております。今日は、楽しみにしているというより、地域を元気にする方々と一緒にお話を聞けたり、勉強するということに、本当に楽しみにしております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

【澤口委員】

どうもはじめまして、一戸町で酪農をしております、澤口と申します。この委員は、二期目になりますが、前回は何をどうしたらいいのか分からない状態で参加させていただきましたが、今回は、ちょっとでもお役に立てればなと思っております。今回委員が、一次産業の方が少ないかなと私なりに思っていましたので、残念で仕方ありません。今回一次産業の方を元気づけて、県北地域を活性化していきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

【澤村委員】

初めまして、私は洋野町から参りました、澤村と申します。洋野町食生活改善推進協議会長、岩手県食生活改善推進協議会久慈支部長であり、県の副会長をしております。

また、洋野町において、７月からウニ獲りが始まりますけれども、洋野町で海女ちゃんをしており、ウニを獲ったりしております。自慢のウニを全国にＰＲする為に、皆さんから色々聞きながら勉強してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

【十文字委員】

二戸市から参りました、十文字チキンカンパニー社長の十文字と申します。鶏肉の会社でございます。今二つの大きなプロジェクトをしておりまして、まず、一つ目は、鶏糞発電の試運転で、秋のお盆過ぎに売電がはじまるというところです。二つ目は、久慈工場が来年の秋にできるのですが、現在浄化槽工事の最中というところでございます。また、それに伴って農場をたくさん作らなければならないという風に思っているところであり、三大プロジェクトになります。地域の皆さまには、本当にお世話になっております。どうぞよろしくお願いいたします。

【田口委員】

二戸市から来ました、田口です、私は保健協議会会長ということで、出席させていただいております。健康について市民と役所のパイプ役として、日々、検診方法や皆さんが元気で長生きを目指して、体操などを行う活動をしております。今日はよろしくお願いいたします。

【長坂委員】

久慈市山形町の長坂でございます。私は、ほうれんそう農家であります。久慈地域農村指導士副会長を仰せつかっております。皆さんのご意見を聞きながら、勉強させていただきたいなと思ってきました。よろしくお願いします。

【成田委員】

皆さんこんにちは、久慈市の成田と申します。今日は北三陸じぇし会代表としてやってきました。北三陸じぇし会というものを知らない方も多いと思うのですが、4市町村（久慈市、洋野町、野田村、普代村）を女性目線で考え、活動しております。また、お母さん方の手作りしたもので、地域づくりを盛り上げていく「tette」（てって）という団体をさせていただいております。地域の活性化にはとても興味があり、皆さんの御意見等色々聞きながら勉強させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【茂石委員】

普代村の国民宿舎くろさき荘から参りました、茂石と申します。皆さまの御意見等伺いたいと思ってまいりました。よろしくお願いいたします。

【和山参事】

どうもありがとうございました。次に県の出席者の紹介です。

【八重樫局長】

改めまして、八重樫と申します。よろしくお願いします。前任は、岩手県立大学事務局に３年間いました。その前の平成 22 年度、平成 23 年度は、大船渡地域振興センターにおりました。被災の年の平成 23 年４月１日からの勤務ということで、当時は、震災復旧関係の担当をさせていただきました。県北地域の振興の為に精一杯やっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【和山参事】

経営企画部長の和山と申します。こちらに来るまで４年間土木関係の仕事をやってまいりました。その前は、地域づくり関係の仕事をやってまいりまして、久しぶりにこの仕事に戻ってきましたので、頑張ってまいりたいと思っております。国や市町村に出向して、色々経験を積むことができましたので、こちらで、何か出来ればいいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木所長】

初めまして、二戸地域振興センターの所長をしております、佐々木と申します。今年で２年目になりますので、委員の皆様のお顔を知っている方もおります。また、食産業やものづくり、観光ということで、お世話になっております。昨年もイベントが色々ありまして、お世話になっております。今年もイベントが色々とあり、前年以上に頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【高橋保健福祉環境部長】

保健福祉環境部長の高橋と申します。出身は、現在盛岡市になりましたけれども、旧玉山村、県北の出身でございます。久慈地域の勤務は、初任以来二度目でございます。10 年ほど前に、二戸の保健福祉環境部に１年勤務させていただきました。県北地域に関しては、だいたい土地勘はありますし、地域事情もだいたい分かっています。微力ながら頑張らせていただきます。よろしくお願いいたします。

【佐藤農政部長】

農政部長をしております、佐藤と申します。４月から着任しております。１ヶ月半程経ちますが、生産部会の方々と意見交換させていただいて、地域のお役に立てればという風に思ってございます。なお、５年前には、二戸の農林振興センターに勤務しておりまして、久慈ということで頑張っていきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

【三田農業改良普及センター所長】

久慈農業改良普及センターの三田と申します。２年目になります。今年は、天候も良くて、長坂委員さんが作られているほうれんそうをはじめ、各作物とも、作業が進み、生育も順調ということで、いい出来秋を期待しております。よろしくお願いいたします。

【千葉農村整備室長】

農村整備室の千葉と申します。２年目になります。現在、野田と久慈にまたがります、被災農地の水田の区画整理を中心にやっております。県北管内農地が、様々これから基盤整備していくところが出てくるだろうと、特にも中山間地域の基盤整備事業とか色々と力を尽くしてまいりたいという風に考えております。よろしくお願いいたします。

【木村林務部長】

林務部の木村でございます、３年目になりました。こちらに来る前は、二戸におりましたので県北は５年になりました。やりがいのあるところだと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

【石田水産部長】

水産部の石田と申します。４月から配属となりました。私は、水産系の技術職員として沿岸の水産地域を歩いておりますので、水産系は全て分かっているつもりでおります。

県で比べますと、水産業一本で食べていくには、非常に難しい面もありますので、私個人的には、暮らしていくためには、一つの業種だけではなく、例えば、農業との組み合わせで年間収入を得ながらという、「組み合わせ」でやっていくのが大事だなと実感しております。

今日は、皆様のお話を聞きながら色々なアイディアをこれから作っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【桐野土木部長】

４月から土木部長をしております、桐野と申します。私も初任地が久慈ですので、多少は土地勘があるつもりでおります。ただ、現在土木部で管理している公共施設は、河川や港湾、海岸など色々なものがあって、守備範囲が広いなというのを感じております。土木施設の復旧復興や整備を行っておりますので、よろしくお願いいたします。

４．議題

【和山参事】

議事に入る前に、配布資料の確認をさせていただきます。本日配布しました資料が、次第と出席者名簿と座席表です。事前に送付した資料が、

資料１は【平成 28 年度県北広域振興局振興施策の概要】です。

資料２は【平成 28 年度振興施策実施計画(年間)】です。

資料３は【いわて県民計画「第 3 期アクションプラン(地域編・県北圏)」の概要】です。

資料４は【いわて県民計画「第 3 期アクションプラン(地域編・県北圏)」】です。

資料５は【いわて県民計画「第 3 期アクションプラン」の概要】です。

ご確認をお願いいたします。

それでは、議題に入らせていただきますが、県北広域振興局地域運営委員設置要綱第４の規定により、運営委員会議は局長が主宰することと定められておりますので、以降は八重樫局長が議事進行いたします

【八重樫局長】

それでは議事を進行いたします。本日は、「平成 28 年度県北広域振興局の振興施策について」意見交換を予定しておりますが、はじめに、当局経営企画部企画推進課長から「平成 28 年度県北広域振興局の振興施策について」説明いたします。

その後、委員の皆様から、ご意見を頂戴できればと考えております。

それでは議題「平成 28 年度県北広域振興圏の振興施策」について説明をお願いします。

【下山推進課長】

経営企画部企画推進課長の下山と申します。よろしくお願いいたします。

振興局の平成 28 年度の施策について説明を申し上げます。資料１をご覧下さい。こちらの資料１は、次の資料２をコンパクトにした内容になっております。

目的、役割、基本方針と上に書いてあり、こちらについては、冒頭、局長の方から挨拶で申し上げたとおりでございまして、ただちょっと色々な計画とか、言葉が出てきてそれが分

かりづらいかと思います。恐縮ですが、資料３をご覧になっていただけますでしょうか。資料３の左上になりますが、県民計画、復興計画、ふるさと振興総合戦略との関連ということで図が付いております。県では、毎年度予算は組むわけですが、長期的な計画を作って、それに沿っていろいろ仕事を進めていこう、岩手県の振興を図っていこうということで、県民計画というものを定めております。県民計画は、平成 21 年度から平成 30 年度までのもので、10 年間に岩手県の発展をこういう風にしていこうというビジョンを示しており、実際どういう風なことに取り組んでいくかということにつきましは、アクションプランというものを作ってございます。知事の選挙が４年ごとにございますので、それに合わせ、平成 27 年度から平成 30 年度第３期アションプランを策定しております。今日御説明いたします平成 28 年度の振興施策も第３期アクションプランに基づいたものでございます。

県民計画は、県の計画の中では、最上位に位置する計画でございますが、その他にも主要な計画としてはまず、大震災からの復興計画というものがございます。これは、平成 23 年度から平成 30 年度までということで、今は、第２期の本格復興期間、平成 26 年度から平成 28 年度の最終年度、復興計画の中ではそういう位置付けになっております。

さらに、昨年度人口減少問題という、増田寛也前知事が座長を務める「日本創生会議」で、地方が消滅するというような提言があって、そういう人口問題に取り組んでいこうということで、全自治体に策定を義務付けられ、昨年ふるさと振興総合戦略を定めました。人口減少に立ち向かう計画であり、平成 31 年度までとなっております。

県民計画は、最も大きいものですが、復興計画、そして人口減少のふるさと振興総合戦略も大きな計画ですので、かなりの部分それぞれ重なる部分もあるのですが、こういうものを一体的に推進していくという状況でございます。

それでは、資料１にお戻りいただきまして、それぞれの分野毎に今年の取り組む内容につきまして御説明をしたいと思います。１番から 14 番までございますが、アクションプランに沿ったものでございます。それでは、まず最初に１番の防災対策の推進でございます。これにつきましては、最初に震災で被災しました施設、県で管理しているものの復旧整備を図るというものでございます。それから二つ目としては、洪水や土砂災害対策、これを推進するということで、河川改修や砂防施設の整備を進めるものでございます。それから２年前に広島、８月に豪雨で大変な被害がございまして、それを受けて土砂災害防止法というのが改正されております。土砂災害の恐れのある区域を調査して、その箇所を指定しなければならないというというものの調査等を進めてまいります。それから、三つ目としては防災対策の強化ということで、学校に津波防災出前講座で、防災意識の向上をはかって参ります。

２番目といたしましては、地域経済や暮らしを支える社会基盤の整備で、まず物流の効率

化を支える道路、港湾の整備ということで、復興支援道路、これは国道 281 号等が含まれますが、復興関連道路、こういったものは復興予算の方で、整備することが出来ておりますので、整備を進めます。それから、交流拡大を担う道路ということで、小袖から大尻地区、県道野田長内線、冬季間改良工事を行っていた際に、１月に波浪でまた被害を受けて観光シーズンに入ってきましたが、7 月 20 日まで復旧工事ということで御不便をおかけしておりますが、できるだけ急いでやってまいります。あとは、林道についても計画的に整備をすすめてまいります。

３番目といたしましては、農林水産業の関係でございます。まず、農業でございます。一つ目は、担い手、次の世代を担うような経営体を育成していこうということで、認定農業者、農業経営基盤強化促進法というものがございまして、市町村が認定する、そういうやる気のある農業者の方の経営改善や支援をしてまいります。あとは、主なところでは、新規の就農者、担い手不足、農業後継者が少なくなっておりますので、そういう後継者を確保するということで色々な体験研修とか、見学会、相談会等を進めていくこととしております。また、新規に農業に就かれた方の経営が厳しいということで、就農初期の支援も図ってまいります。また、農業者の中でも女性の方についてセミナーの開催などを行っていきたいと思います。また、農地中間管理事業というのは、担い手に農地の集積や集約を図るということで、耕作放棄地などを、こういう制度を活用しながら、規模の集積、集約を図ってまいります。それから、被災農地、先ほど、宇部川地区の話がございましたが、そうした農地を含めて、中山間地域等の水田の区画拡大や農地の集積を図ってまいります。また、畑地のかんがい施設、農地に水を送るといった施設など整備を進めてまいります。二つ目は、地域資源を活用いたしました産地力の強化ということで、地域の協働支援活動の強化、生産者リーダーによる指導とか、二戸地区、市町村園芸サポートセンター、そういったもので協働活動を支援して参ります。それから、主力品目等の生産拡大、久慈ですとほうれんそうをはじめとした園芸産地力の強化、二戸は、野菜・果樹・果物の安定生産、そういったものに取り組んでまいります。それから次に畜産の関係でございますと、繁殖の関係では、分娩間隔の短縮をできるだけ図っていきたい、それから、雌牛 21 頭以上への規模拡大というものを進めていきたいということでございます。酪農については、牛乳の品質の改善、乳量の増加を取り組んでまいります。また、生産基盤の整備、飼料生産の省力化というものに取り組んでまいります。三つ目の農蓄産物の高付加価値化につきましては、6 次産業化の取組の啓発・実践でございます。１次産業である農林業者の方が単に生産するだけでなく、加工したり、流通まで取り組むことにより、雇用や所得の向上を図るようなことに取り組んでまいります。また、二戸ですと、果樹のブランド化などに取り組んでまいります。それから、四つ目の農山村の活性化につき

ましては、日本型直接支払制度というものがございますので、こういったものを活用しながら、農山村、中山間の活性化とか、荒廃農地の発生の防止に取り組んでまいります。

次に林業でございます。まず初めに、林業経営体の育成と森林整備の推進ということで、補助事業などを活用して、森林整備を進めます。特に、県民税を活用しまして、いわて環境の森整備事業ということで、間伐を推進してまいります。また、コンテナ苗木の低密度植栽と書いてありますが、そういう植栽作業の省力化についても普及啓発に取り組んでまいります。二つ目には、木材のカスケード利用に対応できる生産体制ということで、建材等の資材から燃料チップまで木材を全部使い切るよう適切に対応できるような体制を整備していくため、新規就業者の確保や高性能林業機械の整備の支援、関係者の連携強化で、そういう木材を有効に使えるように取り組んでまいります。三つ目には、特用林産物、木材以外の山から算出されるものということで、木炭については、生産振興大会とか、勉強会、そういったもので生産者の皆さまのやる気を出していただくように頑張りたいと思っております。また、乾しいたけについては、出荷団体の皆さまに直接販売というものに取り組んでいただいて、所得、利益が向上するように、進めてまいりたいと思っております。また、漆の関係につきましては、保育作業ですとか、優良漆苗木増産技術の整備を図りながら、浄法寺漆や漆器のＰＲを行ってまいります。

水産業につきましては、一つ目には、生産基盤ということで、計画的に漁港、海岸、増殖場の整備を図るとともに、１月の波浪で被害を受けた漁港等の整備、復旧を図ってまいります。二つ目には、生産物、生産体制の強化ということで、秋サケにつきましては、被災の影響等ございまして、昨年あたりはかなり不漁ということでしたので、まずは種卵を確保して、悪い影響があとに続かないようにしていきたいと思っております。それから、アワビやウニなどにつきましても、種苗放流等技術指導をしてまいります。それから養殖漁業であるホタテやワカメ、昆布、ホヤ、マガキについても、収入向上に取り組んでまいります。ホヤとかマガキといった新しい養殖種につきましても、養殖技術の開発指導を行ってまいります。それから、漁船漁業の維持拡大、付加価値向上ということで、こういう漁船漁業というものにも、「カイゼン」といったようなものとか、あとは、船の上で活〆するといったことにも取り組んで、付加価値向上を図ってまいります。それから最後には、内陸の水面の方では、カワウ被害の防止や一戸の大志田ダムをはじめとするワカサギの観光資源化の取組、サクラマス資源の造成、そういったものにも取り組んでまいります。三つ目には、安全安心な水産物の供給と販路開拓ということでは、水産物衛生管理体制の強化を進めてまいります。また、量販店、スーパー等とも協力して販売すること、販路拡大を図るというようなことを進めてまいります。それから、担い手の確保では、昨年度も高校生を対象に、漁業を体験してもらっ

ていましたが、今年度からは、社会人の方に定置網漁業の学習会を行うこととしています。

４番目といたしましては、体験交流型観光の展開です。まずは特色のある地域資源を活用した観光です。例えば、あまちゃんで放映されたロケ地をめぐるような観光やみちのく潮風トレイルなどです。潮風トレイルは、未開通だった部分が今年度中に全部開通して、洋野～普代までその区域の沿岸が全部トレイルになりますので、こういったものを推進していきたいと思います。あとは、三鉄や二戸地区ですとカシオペア体験交流プログラムという事で取り組んでおりますので、こういったプログラムの開催、あと、学校行事とのマッチング促進を図っていきます。二つ目は、受入体制の強化と人材の育成では、北いわて広域観光推進協議会というものを運営しまして、久慈・二戸の観光関係者の連携を図っていくというようなこと、それから、体験型観光・教育旅行の誘致ということで、体験型観光・教育旅行に訪れる方が最近多くなっておりますので、久慈・二戸ではこういったものに力を入れていきたいと思っております。それから観光復興案内人を４名設置しまして、道の駅などで情報発信を行ってまいります。三つ目は、広域連携の強化、情報発信による誘客の促進ということでございますが、首都圏での大規模なイベント、八戸圏域と連携して、誘客を図ってまいります。それから、台湾観光客のＰＲも行っていきます。また、二戸地域は、折爪岳や馬仙峡自然公園を活用した情報発信を行っていきます。

５番目といたしましては、食産業の振興です。一つ目の事業者の経営課題に応じた支援については、岩手よろず支援拠点や出張個別相談会、北いわて食産業コーディネーターを設置して支援してございます。二つ目の北いわて食材の認知度向上につきましては、商談会を首都圏で開催したり、首都圏の方からバイヤーを招いて、こちらの食材を見てもらう機会を設けていきます。それから、ブロイラー関係では、十文字社長もいらっしゃいますが、毎年イベント開催、例えば岩手鶏肉 PR キャンペーン、そういったものでＰＲしていき、ブランド強化、発信というものをしていきます。三つ目の人材を育成する関係でございます。食産業事業者に、トヨタ自動車にお願いして、「カイゼン」指導を通じて、人材育成していく取組、あと水産加工事業所は、大変人材不足といったようなことがありますので、求職者の方の事業所見学会等で御案内して、見ていただいて、就職につなげていただきたいと思っております。

６番目としましては、ものづくり産業の関係でございます。一つ目の経営課題に応じた支援については、岩手産業振興センターの職員派遣を行っております。二つ目の特徴的な産業ということで、この地域は、衣服アパレルの関係が大変盛んでございます。そういったことで、毎年北いわて学生デザインファッションショーを開催して、学生さんから、デザインを募って、高い縫製技術をもつ事業者の方が作品を実際に作るということとか、ジャパンクリエイションと書いてありますが、これは国内最大の繊維の見本市、こういったものの出店を

支援しております。三つ目の人材育成の関係では、児童、生徒の工場見学、こういったものを斡旋して、ものづくりの現場を理解いただいて就業、将来の就職先にしていただきたいという事や、工業高校生については、技能講習をしております。それから企業の皆さまについても、県北ものづくり改善塾というものを開催しております。また、縫製業につきましては、今年度、中堅の女子社員の勉強会を設立し、運営の支援をさせていただきたいなと考えてございます。四つ目は、企業の誘致事業拡大についてです。誘致企業のフォローアップや雇用機会の創出を図っていきたいと思っております。

７番目の雇用機会の確保拡大につきましては、県の方で、若い方の就業を支援するということで、ジョブカフェというものを、久慈・二戸に設置しております。ハローワークとも連携しながら、特に若い方々の就労支援をジョブカフェを中心に行っております。

８番目の医療と健康づくりの関係でございます。一つ目の被災地における支援については、家庭訪問等を通じて、心のケアや栄養指導をしてまいります。二つ目は、医療・介護・福祉の連携等も進めてまいります。三つ目として、自殺対策の推進ということです。残念ながら岩手県は、全国でもワースト、その中で、この岩手県北地域はワーストになるということです。色々取り組みを進めていかなくてはならないと思っております。このほか脳卒中につきましても、岩手は大変悪い状況であり、高血圧が主な原因で、食塩の取り過ぎがその原因とされます。生活習慣病予防には肥満、喫煙等の対策もございますので、そういったものを様々啓発活動等してまいりたいと思っております。

９番目の福祉の関係でございます。被災者については、先ほども申しましたとおり、家庭訪問を通じてのケア、子育ての支援、あと高齢者につきましては、市町村の地域包括ケアシステムの構築支援等ございます。市町村はこの計画を 2025 年度までに作るようになってございます。ですので、こういったものを支援していくということでございます。それから、障がい者、生活困窮者、生活困窮者についても生活困窮者自立支援制度というものが昨年度からスターとしておりますので、取り組んでまいりたいと思います。それから、ユニバーサルデザインということで、老若男女、障がい等に関係なく、誰でも利用できるよう進めていくという考えでございます。

10 番目の環境保全の関係では、環境を守り育てる人材を育成するということ、公共用水の検査、それから、事業所の排出水の水質検査を進めてまいります。廃棄物の適正処理については、いわゆる産廃Ｇメンという指導員が監視指導を進めてまいります。また、二戸の環境産廃については、モニタリング、水質の調査を進めてまいります。放射線についても地表や大気中の放射性物質を測定し公開するほか、色々相談等に応じるようにしています。

11 番目の定住環境の整備と地域コミュニティの活性化でございます。交通安全対策、歩道

や道路防災施設の整備、それから地域の生活環境の整備ということで、都市計画道路、流雪溝、下水道の市町村ごとの支援ということでございます。それから、地域コミュニティの活性化、北三陸じぇし会のイベント・フェスタの開催とか、二戸地域では、若者自ら企画するイベントやカシオペアＦＭ等の放送、そういったものを支援してまいります。また、沿岸振興という観点から、沿岸局と連携して三陸ぐるっと食堂、Ｂ－１のようなイベントを開催してまいりたいと思います。また、被災者の方につきましても、久慈地区被災者相談支援センターを設置してございまして、弁護士をはじめとする専門家によって、被災者の方々の様々な相談に対応しております。セミナー等開催したり、震災の記憶の風化を防ぐ、また、地域の住民に理解をしていただくということで、見学会等も開催してございます。若者女性の活躍支援ということでは、大部分前のところに書いてあるのですが、二戸では九戸政実等の歴史文化、そういったものを発信してまいります。

13 番目は、国体の推進でございます。国体の推進につきましては、今年度は、九戸インターの出口付近に、歓迎のおもてなし看板を設置したいと思っております。最後に、情報発信の関係では、久慈・二戸地域全世帯に「北いわて最前線」を発行して、情報を発信しています。その他ソーシャルネットワーク等活用して情報発信します。

５．意見交換

【八重樫局長】

それでは、只今説明した内容について、委員の皆様から、それぞれの立場でご意見を頂戴できればと考えております。

順番に、間委員からお願いできればと思います。

【間委員】

言いたいことはたくさんあるような気はしますが、まとまりきれてはいません。そこで、かいつまんで今の状態をお話したいと思います。

まず、震災復興についてですが、この地域は、野田村の被害が大きかったわけですが、その他の市町は、他の圏域に比べそれほど被害もなく、復旧復興しつつあるかと思います。震災のことを忘れてはなりませんが、復興や被災地などに固執せず、なぜ被害が少なかったのか、また、これからの目指すべき方向、より建設的な考え方をすべきではないかと感じております。

それから二戸・久慈いずれも共通する課題は、第１次産業だと思います。ですから、原点に帰って、この地域にはどんな資源があるか、何をしなくてはならないのかということを、考えていきたいと思います。かつてこの地域は、寒締めほうれんそうに取り組んでおり、当時の県の担当部長にも色々指導していただき、地盤もできて、生産高も増加してきたのですが、人事異動により当時の部長が転出なさり、非常にがっかりしました。これから販売していこうかという矢先に転出なさり、我々もノウハウを持ち得ないということになりました。そのうちに、花巻地方で寒締めほうれんそうの味が有名になってきました。花巻地方では、ネギの栽培が盛んで、冬のハウスの活用に悩んでいたようです。そこで、寒締めほうれんそうを栽培しました。はっきり言えば、負けてしまったという気がいたしております。そのときの一番の差が輸送料の差でした。どうしても花巻や盛岡の市場に出す際に、コストがかかります。そのうちにこちらでも、寒締めほうれんそうの栽培をする方がいなくなってしまった。今現在、何名かの方が本気で栽培しております。しかし、残念ながら、ＰＲの仕方には限りがあります。そういうときにこそ県が中心になって、やっていただければという風に思っております。

【八重樫局長】

復興に関しまして、久慈管内につきましては、野田村以外の市町は他の圏域に比べれば、被害が少ないということでございますが、私が以前大船渡にいた際は、まさに被害が甚大で、被災直後で、復旧復興関連が中心でした。

県の方針としては、復興をしっかりと進めつつ、復興後も見据え、ふるさと振興など、建設的にいろいろな事業を進めていくという姿勢でやっていきます。

【佐藤農政部長】

先ほど、ほうれんそうのお話が出たので、お話をさせていただきます。かつて 10 億円の販売をしていたのが、今ではその半分くらいになっているということで、確かに、昔に比べると販売額は減少しております。ただ、ここ数年は、横ばいないし、右肩上がりの傾向がありまして、私もこの４月から来ていますが、先日も生産者との話の中で、若い人達が意欲をもって取り組んでいるという感じを受けました。昔と比べて大規模に行っている方が増えてきている実態もございます。そういった中で、ほ場の土壌消毒や、機械化一貫体系を取り入れながらやっていこうというところで頑張っているところでございます。また、販売のためのロゴマーク作りなど、目に訴える宣伝にも取り組んでおります。なんとか、かつてのように販売額を増やしていきたいということで、生産者や、農協、市町村の方々と一緒になって取り組んでいるというところでございます。よろしくお願いします。

【三田農業改良普及センター所長】

補足します。岩手県のほうれんそうは久慈市麦生で、昭和 55 年の冷害を機に始まりましたが、寒締めほうれんそうに関しましては、花巻・盛岡各地域で間委員のお話しのとおり寒締めほうれんそうの栽培が進められているかなという気持ちは正直あります。

ではなぜ久慈地域で寒締めほうれんそうの取り組みが進まないのかと言えば、一つは、ハウスの構造に問題があって、平成 26 年２月の大雪の影響で、管内でも 200 棟規模のハウスが大きな被害をうけました。実は、管内のハウスの多くが雨をよけることを前提とした簡易な構造になっていることから、大雪に耐えられないという構造になっています。そういう事情もあって、寒締めほうれんそうを栽培したいけれども雪が心配で、なかなか種を撒けないという方々の声を聞いております。先日開催されたほうれんそう主業型農家の方々との意見交換会でも、構造を見直したほうがいいのではないか、補強した方がいいのではないかという声もでてきております。したがって、冬期間でも安定した生産ができるような環境づくりを、

ハウスの構造面からも検討していかなくてはならないかなと、今聞いて感じましたので、お話しいただいた点を含め市町村や関係団体の方にも意見をつないで、寒締めほうれんそう生産の再構築に向けていきたいと思っております。

一方、佐藤部長も話したとおり、去年のほうれんそう販売額が底であると考えております。若い人や中核を担う人も育ってきておりますし、消費者からも期待されてきておりましたので、今後は、技術指導も力を入れていきたいという風に考えております、以上です。

【安藤委員】

私は漁業をしておりますので、水産業について、皆さんから意見を聞きたいと思います。大震災で野田村も一度壊滅的になったのですが、岩手県をはじめ、色々なところから御支援いただきまして、震災から５年経過し、震災前の７割ほどまで復活してきております。

担い手の育成なのですが、今までは親の跡を継ぐ、祖父の跡を継ぐというような、家族経営が多かったのですが、子供たちも漁業をやらなくなってきて、岩手県全体で後継者が不足してきているというのを聞いております。それについての打開策は、現在模索中です。これから考えていかなくてはならないという状況です。

野田村では、ホタテをメインに販売してきまして、今まで地道にＰＲ活動を続けたおかげで、徐々に「荒海ホタテ」というブランドで売出し、知名度も浸透し、順調に売上も伸びてきています。

震災後に始めたホヤとマガキのシングルシードですが、野田の海で十分おいしく育つので、なんとか収入源にしていきたいなと思っております。

あとは、どうしても補助に頼りがちな部分がありますので、なんとか自分たちで上手くやれないものかと考えております。農業も漁業も一次産業の課題は似ているなと感じておりますので、良いアイディアがありましたら御意見いただければと思います。

【石田水産部長】

担い手対策につきましては、水産業だけでなく、一次産業の全国的な問題になってきています。震災によって、水産業は壊滅的な被害を受けたのですが、それによって、かなり影響はでてきております。全体のお話しをすると、震災前の漁業就業者に対し、今の漁業就業者は７割。３割は減っています。高齢の方から漁業を諦めております。廃業される方もいます。やむを得ない部分もありますし、人口減少社会と一次産業の年齢構造からしますと、人が減っているのは、構造上ある意味やむを得ない。

ですが、残った人が生活できる構造に展開していかなくてはならないというのが大きな問題です。個別にみますと、漁業生産で家族４人暮らしていけるのは、販売で 700 万～800 万、

収入で 400 万くらいはないと生活設計が成り立たない。一次産業あるいは漁業で収入を得る構造をどう作っていくかというのが、一番の大きな課題です。県内全体でみますと、例えば、宮古以南では、1,000 万円以上水揚げされる方がいらっしゃいますけど、割合としては、多い実態があります。当地域では厳しいので、野田村でホタテをやりながら 300～400 万稼いで、あるいは、ほうれんそうを作りながら、そういう一次産業のミックスの構造を真剣に考えていきたいと思っております。

われわれ行政は、縦割りでの林業、水産、農業の施策はあるのですが、生活者の視点で、あるいは、そこに暮らす人の視点で、収入を得る年間収入の形はどういうものがあるのか、支援策はどういうものがあるのか、真剣に考えていく必要がある。それが地域に定着することであると思います。

もう一点は、新しい養殖種目です。例えば、これまで野田村では、カキの養殖はしなかった、できないという概念からスタートしましたが、やってみたら育っております。久慈地域だと、カキをノロウィルスの影響なく、いつでも生食で食べられるとなると、今のところ野田湾しかないというようなところはありますが、やはり提供の仕方、ホテルなど色んな形が見えてきますので、ロットは小さいかもしれないが、話題や強みをしっかり活かした形で、もっと積極的にＰＲしていくことは大事だと思っております。我々としても、役所はとかく許認可や補助行政で走るのですが、それだけではなかなか立ち行かない状況ですから、しっかりとみなさんと議論しながら、それぞれ皆さんが持っている考えを整理しながら、前を向いて仕事をしていきたいという風に考えております。

【大沢委員】

私の方からは、アパレル関係について少々お話させていただきたいと思います。2015 年度の衣料品の輸入浸透率（国内自給率）というのが、経済産業省から発表になりました。2014 年度は国内浸透（自給）率 3%ということで下降傾向にあったのですが、昨年は、全産業伴うと思いますが、国産回帰ということで、我々の業界にも追い風が吹いてきたということであったのですが、実際数値化されてみますと、輸入浸透率（国内自給率）は更に下がって、1.8%ということで、98.2%が外国で作られて、国内生産はわずか 1.8%まで落ち込んできているということで、お客様とも話しになるのですが、このままでは国内では、ものを作れないというお話もさせてもらいます。業界をあげてそういう話もしておるのですが、コスト主導主義というか、そういういった部分で、もう作らなくてもいいのではないかという、乱暴な意見も業界ではでてきています。自由競争にさらされながら、何とか残っている産業であるということで、浸透率以外にないという事になります。そういったところでなんとか生き残りをかけて、それぞれの企業が、それぞれの強みを生かしながら、工場運営をしているわけです。

手前どもの会社の盛岡工場は、人材面については、県内全域の応募をいただくことによって、創業以来人手不足に直面したことがないのですが、二戸工場は、３年ほどは、学卒者も応募すらないということで、我々北いわてのアパレル振興会の企業に伺っても、久慈地区、二戸地区のほどんどがこういった状況ということで、本当に若者の皆さんに夢を持ってもらえるような取組を存分に取り組んでいかなければならないなという部分もございます。そういった目的もあって、県北広域振興局さんとも連携させてもらいながら、少々取組などやらせてもらっているわけなのです。来年は二戸で４回目の開催ということで、どうしても予算的な部分、ソフトな面でも、バージョンをあげていくというのが非常に困難な状況でぜひとも、地域と業界のためにもぜひともみなさんの力をお借りできればなという風に思いますので、よろしくお願いします。とにかく、女性の雇用がなくては、まわせない産業でございますので、そういったところにむけて魅力のある企業となっていけるようにしていきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

【八重樫局長】

アパレル産業の振興は、重点施策の一つでありますので、引き続きしっかりとやっていきたいと考えております。

【大建委員】

旅館業なので、観光の視点でのお話しになってしまいますが。基本的に都会近辺のお客様が多く、次に関西のお客様がいらっしゃる温泉郷なのですが、何をしにこちらにお泊りにいらっしゃるんですか？とお話しすると、あまちゃんを見に来ているというお話も聞きますし、台湾から縫製技術を学びに来た外国人もいらっしゃいました。そのときに初めて、久慈市は、あまちゃんで盛り上がっているんだ、いいなと思って、縫製技術って世界に誇れる技術がすぐそこにあるんだというお話を聞いて、感心して勉強させていただいているところです。他にも宿に泊まってくださったみなさまがロコミを書いてくださって、すごい好評していただいていますが、はじめて岩手県に観光に来てくださったお客様が、せっかく一生懸命頑張って稼いだお金を、一生のうちの一瞬の時間を使って、県北に泊まりにきてくれたということに対して、宿の方で出来ることは精一杯やっていきたいと思っているのです。

とにかく、先ほどの農業、漁業のお話していましたが、旅館では、とにかくお料理で歓迎させていただこうというスタイルでやらせていただいています。ただ、担い手不足というのが、色々なところから聞こえてくるので、最近農家の方たちで親しくなった方をお招きして、一般の宿泊者と同じ会場で、農家のおじちゃん、おばちゃんと一緒に会食をしていただくというのをちょっとずつやってきています。「いやいや、うちは農家だから」、「農業しかやってないから」とか言う人が結構多いですが、そうではなくて、旅館業というのは、農家の方や、漁業、畜産をやっている方がいらっしゃらなければ成り立たない職種なので、御飯を食べていただいて、お野菜を食べて喜んでいる表情とかを見ていただきたい。

金田一温泉は、鮎の養殖もやっているので、一年中鮎も出せるのですが、漁業関係の方にも来ていただいて、ちょっとずつ覗いて、自分が育てたものが、お客さんに食べられるときにどうなっているのかなというのを、直接見ていただく時間や機会というものを作るようにしていました。そうすると、農家さんも明日からまた頑張るかというお話もしていただいていて、もしかしたらそこから、「ブランド化」というものができるのかなと思いました。こちらからブランドだと出すのではなく、お客様が食べて、おいしいねというのこそ、ブランド力があるのではないかと思います。農業、漁業、畜産業の若者の方も、そういうところを見て、もうちょっと増えていけばいいなと思っております。

旅館の中では、ちょっとずつこれらの取り組みを拡大させていこうというお話があるのですが、こういう場所でしか、おいしい食べ方、旬の時期ですとか分からないと思うので、こちら側ももっと勉強する時間があればいいなと思っております。一人で勉強しても手を広げられるエリアは限られるので、お話をお伺いできると、もっと時間を短縮しながら、自分たちのテリトリーを広げながら、お客さんに関与してもらえるんじゃないかなと思っておりま

した。皆様お力をお貸し下さい。

【八重樫局長】

食材の生産者の方を招いて食べていただくのは大事ですね。非常にモチベーション向上にもつながりますし、冒頭にも申し上げましたが、久慈・二戸管内は食べ物がおいしいなと率直に思っております。是非そういったものを生かした形で、観光なども良い方向にいけばいいなと思っておりますし、我々も支援・協力をやらせていただければと思っております。よろしくお願いします。

【小野寺委員】

軽米町では、第一次産業を中心に、タバコやブロイラーといった産業が盛んであります。我々も創業当時は、第三次産業があまりなくて、我々も何社かで人口の数%として従業員同士で活気づけていた時期があるのですが、昨今、皆さんが感じられている通り、就業人口が少なくなってきており、町内での規模拡大というのが大変難しくなっているような感じがしております。

私共の会社もいま、軽米と滝沢にありますが、やはり人集めができなくて、矢巾の方３か所で活動させていただいていますけれども、県北の事業形態と、県央の事業形態を考えてみますと、産官学のつながりの部分は、非常に県央の方がとりやすいというのがあります。県立大学や産業振興センターにお伺いできることです。その機関では、近代的な測定器を備えております。県北から一つのものを測定するにも往復３時間くらいかかりますが、盛岡近辺ですと小一時間で測定できるというものもあります。県北地域には、そういう施設はありません。県外になりますが、八戸とつながりを強く持てばというようなことも言われておりました。

岩手県では、自動車産業を推進していただいて、その中で、生産性向上、トヨタの生産方式というのを我々も、知らず知らずのうちに導入してまいりましたし、身につけさせていただいたなという風に思っております。そういう関係で、我々がこれから目指す生産工場は、人手のかからない高度な技術をもったロボット生産というものにチャレンジしております。技術者の部分も補充をかけていきたいのですが、岩手県北では、Ｕターン、Ｉターンの情報等も探っておりますが、Ｕターン、Ｉターンしてもらうには、それ相応の賃金レベルも大きいような感じもしております。我々がもっともっと力をつけて、そういう方々にも戻ってきてもらえるような付加価値の高い生産をしていなくてはならないかなという風に思っております。そういう意味で、今後我々の占める割合は、県北では小さい割合ですが、県北にも色

んな特色をもった企業さんがおりますし、色々な集まりの部分はもたせておりますので、我々もアパレルさんに負けないように頑張っていきたいという風に思っております。高度な技術に対する県からのご支援、ご指導をいただければ大変助かるので、よろしくお願いします。

【八重樫局長】

県立大学との共同研究や、それから県立大学で依頼があれば、研究するという制度があります。経費は県立大が負担（1回50万円）する制度ですが、県北地域は、利用する方が少なく、特に軽米は少なかったと思います。盛岡以南の地域は、依頼が多かったように記憶しております。是非、県立大学の地域連携室というところで共同研究などの相談ができますので、利用いただければと思います。あと、Uターンにつきましても、大学で一度県外に出たが、戻ってきたいという相談がきています。それは、学生支援室というところで対応しておりますので、相談してみて下さい。よろしくお願いいたします。

【佐藤委員】

私は、高齢者福祉に携わっておりますので、その取組についてお話させていただきます。一戸町でも、特養等の入所に関しては、待機していただく状況が続いております。また、以前より医療依存度が高い方が増えています。昨日、一戸町主催で、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域住民とケアマネージャーの会というものがあり、参加してきました。県の大釜課長さんが特命講師ということで、来ていただいて、地域の方に、包括ケアというのはどういう事だろう、地域でどうするのだろう、ということの勉強会でした。地域の方も参加してくださって、地域包括ケア実現のため、市町村が中心となって総合的に取り組むことで地域の高齢者を支える社会を目指している。地域づくりのためにどんどん発信してくださっていると改めて感じました。こういう会があるということは、みなさんにも伝わっていくことだと思います。

一戸町は、障がい者施設もあれば高齢者の施設もあり、福祉の町だと言われておりました。ただ、私は、高齢者の施設で働いておりますけれども、障がい者施設との交流がなかったり、障がい分野の知識不足などもあり、苦手でありましたが、町全体での医療、障がい、高齢者との情報交換会、勉強会があり、参加することで知識も深まり、連携もとりやすくなっています。これからは、高齢者、障がい者、そういうのではなくて、みんなで支えていく、地域住民で興していく、アクションして、私たちのエコマップを作ってみたりとか、そういうところから地域を小さい単位で、支えていこうというところで、盛り上げていければと思っています。

社会福祉法人の中でも地域貢献という話が出てきていますが、地域貢献というのはどういうものなんだろうと、すごい悩んでおりました。地域貢献というのは何だろう、何をすれば地域貢献なのか、私たち福祉の人間は発信力がなかったので、閉じこもって閉鎖的な施設でした。そういうところもやはり変えていかなければならないと思っておりますので、地域の方に開かれた施設を目指す、こういう事を心がけていきたいなと思っております。

あとは、歯の健康の話ではないのですが、高齢者介護をしている家族構成が「5080」という、50 歳の息子さんと、80 歳のおばあさんという、本当に色々な問題を抱えた家族が多くなってきました。その家族の中にも障がい者がいる、高齢者だけの勉強をしていてはどうしようもない、いろんなところのつながりを求めていきたいということで、色々なことをやっています。生活困窮者の自立支援ということで、二戸の社協にいる相談員の方が、講義してくださいましたが、こういう方もいるんだ、こういう人につなげていけばいいんだ思いました。主催は、二戸の振興局だったのですが、勉強になりました。

職員のマンパワー不足については、子育てを応援しています。今いる職員の中で、看護師

が不足していますので、法人での人材育成事業を行っています。法人支援で看護学校等への入学など職員養成に向けてチャレンジしています。卒業し、看護業務に１人、今年度入学が１人の状況でもあります。今までの意見をお伺いして、すごくいいお話が聞けました。いい椎茸もあるし、いいほうれん草もある、こういう食材があるのに、なぜ特別養護老人ホームは取り入れないのだろう、いい食材をお客様に食べていただきたい、そういった栄養士の想いも伝えていければと思っておりました。本当にいいものを紹介していただきました。特別養護老人ホームは、カキやお刺身が出ていないという状況でしたので、今回の会議でのつながりというところで、地域も盛り上げていければと思っております。

【高橋保健福祉環境部長】

色々ご意見いただきありがとうございました。確かに今は、高齢者も福祉も障がいも地域で支えるというのは、キーワードで、施策もそういう方向で進んでおります。行政の面でも福祉は、住民に近い市町村において主に対応していただいている状況でございます。県としての役回りは、市町村を超えた、広域の範囲でのネットワーク、仕組みづくり、個々の人材育成が役目だろうと思っております。そういう意識で、市町村の方々と仕事をさせていただいておりますし、今後そういうところは、十分に意識してやってまいりたいと思っております。

私の地元では、地域医療を担う病院が中心となって介護と医療の非常にいい連携を作っており、地域のお年寄りや家族は安心しております。私のところの例も参考にしながら、行政の立場から介護と医療の連携推進といった課題への対応を考えていきたいと思っておりました。ありがとうございました。

【澤口委員】

私は酪農の話しかできないので、酪農の話をさせていただきます。今、一戸町奥中山地区は、限界集落のようなところで、どんどん進んでいます。私は、４人で農場を作りましたけれども、きっかけは、将来を見たときに、この集落で、自分の職をいかに続けるかと、そういうところが始めたきっかけです。そういう私たちを「４人でやってうまくいくわけがない」と 10 年前に笑った方もいました。でも、現在、私を笑った人達が農業を辞めていったりしています。

４人で農場を作った後、餌工場を作りました。人手不足になり、だんだん高齢化になり、飼料生産ができなくなってしまった。そういうのをみて、餌工場が必要だということで作りました。当初は５戸の農家でしたが、今は９戸の農家に餌を供給しております。面積も 180ｈａになりました。こういう事を評価してくださる方もいますが、今後も続けることができるかと言えば、自信がありません。今の若い方は、どういう風に考えるのかと思ったりしています。私も還暦が近いので、徐々に若い人達に継承していきたいと思いつつ、農家に声を掛けたりしています。すると５年先酪農を続けていられるのか、将来のことを考える余地もない、今が精一杯という考えでした。今働けるうちは自分の育ってきた地域でなんとか営農しながら、息子に継承したり、会社に継承していけばいいと思います。

やはり、酪農に関わらず、野菜農家や、そこで雇用される人、そういう関係を上手く続けていければ、集落でなんとか完結できるのではないかな、そういう集落営農をどこかで作ってみたいと思っています。それがなければ、限界集落間近ではないかなと思っております。岩手県には、そういうところがたくさんあるので、力と知恵を貸してください。

【三田農業改良普及センター所長】

非常にいいキーワードを出していただいた。継承という言葉と、集落営農という言葉。今、農業分野で考えていかなければいけないことは、経営継承の仕組みを作っていくことかなと思っております。内陸ですと水田地帯中心に、任意の集落営農組織が法人に変わってきています。そういう点において、県北、沿岸では、もともと水田が少なかったというところで、法人の育成が、遅れているというのが実態と思われます。方向としては、経営継承の仕組みの部分をどう強化するか、家族経営もありますし、集落営農もあるだろうし、法人もあるだろう、色々な選択肢の中で経営を強化できる形態を選択できるよう支援していきたいと思っております。

なお、県ではリーダー育成をする為に、アグリフロンティアスクールの受講生をまだ募集しております。リーダー育成や技術を磨きたいという人がいれば、是非二戸普及センターの

ほうでも構いませんので、ご紹介していただければと思います。

みんなで力をつけていきたいと思っておりましたので、ぜひお願いします。

【澤村委員】

私は、洋野町で食生活改善推進員協議会長をしております。食を通した健康づくりの手伝いをしているわけです。震災の時には、被災されたところに炊き出しに出かけたりとか、野田村支援に駆けつけました。仮設に入っている皆さんのところでも、支援を続けてまいりました。そんな中、アンケートをとった際に、炊き出しのラーメンはおいしいが、しょっぱいというお話がありまして、減塩が必要だなと考えました。あとは、野菜不足というのを聞きましたので、メニューの中に野菜たっぷりにしました。野菜はたくさんありますが、地元のもので買わなくていいもの、ある食材を使うメニューを考案して、野田村の支援を継続して行いました。そんな時に、Ｓ－１グランプリ大会がありました。そこで、野田村の仮設でおいしいよと言われたものを取り入れたメニューで応募しました。それがグランプリになりました。普通のほうれんそうではダメだということで、久慈地域の寒締めほうれんそうを使いました。そして、２年目には、洋野町で子供達に人気のさんまを使った汐風サンマロールを作りました。それが、「郷土の誉」賞をいただきました。

私は、海の仕事もしていて、震災の時、洋野町は犠牲者はありませんでしたが、船や仕事道具も全て流されて、大変な思いもいたしました。そんな折に思ったのは、育てていく漁業、ウニの種苗の放流などご指導いただいて、本当にありがとうございます。今着々と復興する中で本当にありがたいと思っております。

そして、洋野町におきまして、希望郷いわて国体のおもてなしを10月２日から５日までの４日間、私たち食生活改善推進員協議会に「おもてなし」を依頼していただきました。全国からおいでになるお客様に、洋野町のいちご煮を食べさせたいという事で、地元の食材を使って作ることにいたしました。これからも食を通して、たくさんの事を学びながら、岩手県をＰＲしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【高橋保健福祉環境部長】

食生活の改善につきましては、本当にご尽力いただいております。また、Ｓ－１グランプリで最高賞を獲得し、情報発信していただいております。久慈・二戸地域は、脳卒中の死亡率が高いということで、その背景には悪玉コレストロールが原因となっているわけですが、塩加減を抑えることが効果的だと言われております。医療費の軽減効果につながるまで、もう少し先だと思いますが、必ずつながる施策だと思います。いつかは疾病の予防と医療費の削減に繋がってくることだと思います。まだ効果が見えない中で、御尽力してくださってい

ることに、非常に感謝していますし、今後ともよろしくお願いしたいと思っております。

【十文字委員】

四つお話させていただきたいと思います。

まず、雇用につきまして、当社は、八幡平市、二戸市、久慈市と工場がありまして、工場で働いている方は、1,200 人でございます。そのうち 85%が女性でございます。しかし、ここのところ毎年高校生を一つの工場で 10 人ずつ採用しているところなんですけれども、女性を雇いたいが、男性・女性の割合が半々になっておりまして、非常に危機感を感じているところであります。なぜ地元に女性が残らないのかずっと考えていましたが、やはり晩婚化、独身率が高くなっています。こういうと語弊がありますが、男性は、50 歳でも 60 歳でも結婚できるが、女性は早くしたいとの考えとのギャップに対して女性もイライラしていているのかなと思っております。会社の若い管理職が気付くと中国人と結婚したりしています。男の甲斐性をあげたいと思っていますが、県の方でもなんとか、雰囲気作りをしていただきたいと思っております。

やっぱりかっこいい結婚式場がない、地元で結婚という雰囲気作りが盛り上がらない一つの原因ではないかと思います。やはり、ムードを作っていく、婚活などそういうビジネスを作っていったらいいのかなという風に思います。八戸や盛岡みたいにかっこいい結婚式場を作るのは難しいと思いますので、地元の資源を生かした作り方、自然を利用していければいいのかなと、勝手に想像して思ったところでございます。

二つ目は、自殺率に対するお話です。無視すべきお話だと思います。自殺者÷人口でして、中でも高齢者が多いのは当たり前でして、インターネットで調べたところ、自殺者数を死んだ人で割ると、高いのは沖縄、東京、埼玉、千葉、神奈川です。若い人の自殺率は、首都圏の方が高いのではないか、自殺した理由をみると、家族に迷惑をかけたくない、年をとって寝たきりになりたくない、迷惑をかけたくないとの思いから自殺する方の割合は、結構高いと思います。賞賛されるべきことではないが、世間的なワーストとずれているのではないか、地域的にも開き直って、逆に首都圏を攻撃するべきではないかと私は思っておりました。

三つ目は、先ほどからでていました生活習慣病のお話です。まず、禁煙と受動喫煙のお話ですが、タバコの産地ですので、タバコの喫煙率が高いのは当たり前の話だと思います。私は、吸いませんし、吸って欲しくはないですが、実際、産地ですから、もう少しくくり方があってもいいのではないかなと思います。仲いい雰囲気の喫煙で、受動喫煙は除く形で、いい形でタバコ産業に取り組んでいけばいいのではないかと思います。そういう意味で、要求が少し高くなっているのはしょうがないと言えばしょうがない話でして、それを追っても仕

方ないと思います。

四つ目は、減塩の話です。青森県の資料を見ていたら、とにかく出汁を使おうという前向きな取り組みをしておりました。塩を使うなではなく、実際やっているのかもしれませんが、塩を使わず何を使うかという姿勢が必要だと思います。その中で、減塩の取組には、私はドレッシング作りだと思います。この地域で、地元のレストランでドレッシングを作ってやっているところもございますし、そういう意味でなにかできないかなという風に思っております。

最後は観光についてです、いつも思っていることなのですが、ここの地元というのは何もないことに価値がありまして、何もないという雰囲気を徹底的に出していくべきで、目障りなものがぽつぽつありまして、撤去したらすごくきれいなのに、撤去しないのでイマイチきれいではない、そういうところがよくありまして、プラスして何か作るのではなく、マイナスの発想で、撤去していってなにもないのがすごくよく見えるというような、そういう感覚を持ってやっていけばすごくいいのにと思っております。以上です。

【高橋保健福祉環境部長】

健康の方に関わってご意見ございました自殺率のお話につきましては、行政の施策として、減らしていくという方向で施策を推進してまいりたいと思っています。今自殺の要因として多いのは健康不安と、働き盛りの世代の自殺というのが非常に問題視されて、取り残された家族はずっと生涯思いを引きずっていくという状況などを見ていますと、行政としてもやはり減らしていくという方向で進めてまいりたいと思っています。それから、生活習慣病に関わってタバコの問題についてのご意見ございました。確かに二戸の振興局にいるときも、二戸はタバコの代表的な産地でございましたので、なかなか他の地域と同列には、喫煙防止のキャンペーンを張りづらい面もございました。そこは総合的に考えて、生活習慣病を予防していくという考え方でいいのかなという風に思います。産地ですので、そういう所も考慮しながらキャンペーンをしていくしかないのかなと考えております。減塩についてもアイディアいただきました。栄養士の方にも情報提供したいと思っております。

【田口委員】

私は保健委員ということで、先ほど十文字さんにもお話していただいて、そのとおりだと思っております。私は、みなさんが健康でなければならないと思い、検診をよく勧めるのですが、受けない人は受けないということが分かってきました。そういう人は、病院に行っていれば、検診を受けなくてもいいのかな、ただそうすると検診率には入らないというところがあります。県の仕事でも市の仕事でも検診率は、パーセントで出るわけですが、少々病気をしていても、多少太ったり痩せたりしていても、健康であればいいのではないかなということで、自分の健康を第一に過ごしていただければいいのかなという風に思います。「元気で長生きだよ」という声掛けをしております。

【八重樫局長】

行政としましても、健康が第一ということで進めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

【長坂委員】

私は、ほうれんそうのことしか言えませんが、当初、寒締めほうれんそうをブランド化しようということで、色々やりました。この会議で、お話聞くと、３名の委員から寒締めほうれんそうに関してのお話が聞けました。それは、もう既にブランド化になっているのではないかと思いました。

生産者の方がもっと生産意欲を出さなければいけないな、というのを感じました。ほうれんそう産地と言えども、今どんどん辞めていく方が多くなっておりまして、若い方も、サークルなど作って意欲的に頑張っていただいていると思うのですが、1 年間に 10～20 人ほど辞める方がいまして、高齢化に追いつけるのかな、若い方に頑張ってほしいということを思っております。

集落営農に取り組んでみようと考えても、うちの地域は一人暮らしの方が多く、例えば集落営農を、地域の人に頼んでやろうとしても、元農家をやっていた 80 代の方など、働ける状況ではない、やはり若い人達を呼び戻すか、新規就農の受け入れをしていかないと、辞めていく人達に追いつけないのではないかと最近思います。なんとかしないと言ってはいるが、いい方法も中々ない。仕事を久慈の近くでしていて、子どもを久慈の学校にいれたいという方、そういう人達ならなんとか呼び戻せるのではないかとか考えている。これは、これからの課題で、ほうれんそう農家みんなで考えていくべき問題だと思っています。

【三田農業改良普及センター所長】

貴重な御意見ありがとうございました。高齢化で辞めていく生産者の方に対しては、今までありがとう、ごくろうさまと気持ちよく見送り、それに見合うだけの新たな人をどう確保するのかというのが大きな問題であると思います。これについては、関係者みなさんで知恵を出しながら、例えば、補助を手厚くすればいいのか、もう少し安心して作れる仕組みがほしいのか、どうすれば気持ちよく新しい人が入ってくれるのか、みんなで意見を出している所です。

一方、長坂委員さんに自信をもってほしいのが、生産者が生産者を支えていくという仕組みがあることです。我々行政サイドは、地域協働という言葉を使いますが、長坂委員さんも産地リーディングサポーターとして、約 500 人の生産者を支えていただいているわけで、これは自信をもっていただきたい。必要なのは、長坂委員さんの後に続くリーダーをどう育てていくか、その部分が他の地域に比べ少し弱い部分でもあるので、県としても今年度からてこ入れしていきたい。具体的には、４人のサポーターでは約 500 人の生産者を支えられないので、現在のサポーターに続く次期リーダーが育って全体を支えていく仕組みを作れれば、

若い人達も、「じゃあ栽培してみようかな」という気持ちになってくれるのではないかなと思っております。雇用についてもおっしゃるとおりで、人を集めようとしても管内からは、なかなか集まらない。二戸地域では、青森県から集めているという状況もあるので、どのようにしたら人の確保ができるか、雇用の安定確保に向けた知恵も出していきたいので、長坂委員さんからも知恵を拝借したいと思っております。よろしくお願いします。

【成田委員】

私の方からは、人口減少対策の推進についてお話します。

特に、女性に魅力のある地域づくり、例えば、第一次産業、伝統の食や手作りのものを若者に伝えていくことがすごく大事なことではないかと思っております。北三陸じぇし会で、提案しているのが、若者女性目線で食や手作りの伝統のもの、伝統工芸、伝統の食を若者のアイディア、デザインで後世に伝えていくことです。この提案をしていくと、どちらも活気づくのではないかと思っています。そこにも人との交流というものもありますので、若者と高齢の方、高齢の方は高度な技術をもっているわけです。伝統の味や食文化、そういうものに繋がっていくのではないかという風に思っておりました。

あと、人口流出の防止についてです。私個人の意見としては、流出してもいいのではないかと思っています。逆に、戻ってこようとするきっかけを与えるほうが大事ではないかと思います。私も県外に出ていて、戻ってきた理由というのが、家族の一身上の都合で、家族の絆というのは、本当に大事なものではないかと思います。外に出て、色々な刺激をもらい、今のアイディアというものを、戻ってきた地域にちょっと刺激を与える、暮らしている人達が楽しめるよう進めていくことが大事なのではないかという風に思います。

女性というのは、例えば、母親のコミュニティというのもすごく大事だと思います。お母さん方が集まって、「久慈地域はつまらない」と言うのではなく、「久慈地域で楽しいことしようよ」という雰囲気を作る、そういったことも大事なのではないかと思います。地域の活性化というのもお母さん方は、アイディアが豊富なので、集まるといろんなアイディアが出てくるので、今の伝統を持っている高齢年層と若者が交流できる街づくりというのが大事なんじゃないかなと思って、今も活動している最中です。

【八重樫局長】

ベテランと若者が連携して取り組むということ、あと、戻ってこようというきっかけ作りが大事ということですね。実は、県立大でも３～５年県外へ出ていたが、様々理由はありますが、戻りたいという相談が結構あります。

人口減少には決定打はないが、今いただいた意見を大事にしていきたいと考えております。

【茂石委員】

私の方からは一点、復興道路についてです。

普代には、普代道路が開通していますが、降り口に地名だけではなく、観光地や観光名所などを表示してほしいということのお願いでございます。観光で来る方も普代を通り過ぎていく方が多いのではないかと思います。実際、宿泊された方で、久慈市に観光に来た方は、「普代をスルーして田野畑に行って戻ってきたよ」とか、あるいは、宮古方面から来た方は、「今野田にいるけどどうやって行くの？」などと言われたことがあります。

復興道路もあるのですが、そのままスルーしていく方も多いと聞きますので、ご検討をしていただければと思っております。

【桐野土木部長】

土木部だけで答えれることではないのですが、いわゆる案内標識は、道路管理者が設置するものです。国など色々なところで分担して、どういったものが適切なのかということ、道路ネットワークができていく中で、考えていかなくてはならないものだという風に思います。

あとは、素通りされていくということでしたが、色んな対応が考えられると思います。例えば、観光パンフレットで周知するというようなこともできると思いますし、観光サイドと連携して、周知していくということもできると思います。道路だけでどうにかしようということではなく、みんなで考えて、対応していきたいと思います。

【八重樫局長】

本日は、貴重な御意見ありがとうございました、すぐできるか検討が必要なことだと思いますが、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

そろそろ定刻に近づいてまいりました。本日は、たいへん貴重なご意見をいただきありがとうございました。

いただきましたご意見については、今後の施策の参考とさせていただき、「北いわて」を元気にしてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「その他」ですが、何かございますでしょうか。

何もないようですので、以上で議事を終了させていただきます。

６．閉会